

障害児のためのユニバーサル電子書籍の作り方

NPO 法人 支援機器普及促進協会
〒617-0845 長岡京市下海印寺伊賀寺 34-9

助成事業の概要

平成 24 年 4 月より約半年間は、情報収集の期間とし、様々な電子書籍のファイル形式のメリット・デメリット等現状を調査します。また、各ファイル形式に応じた作成方法を一旦まとめます。

合わせて、同時期に障害者（児）の特性に応じた読書に関する困りごと（ニーズ）を改めて調査します。

後期には、各電子書籍の作成方法の難易度や汎用性等を、各支援者（支援学校の先生や、福祉施設の職員）に実際に体験してもらい、チェックしたのち必要であれば修正します。

また、各電子書籍が個の障害による読書格差を補完出来ているのかどうかを、対象者（児）に実際に使ってもらうことでチェックし必要であれば修正又は別の方法でのアプローチを模索します。

平成 25 年 2 月から 3 月にかけて調査研究結果をまとめて、報告書の作成にかかります。

事業の成果

一口に電子書籍と言っても、その障害の種別によりファイルフォーマットや読むための機器によって多くの対応が必要となる。

加えて、読ませたいものを作成する手段もその電子書籍により様々である。障害の特性により、効果のあるファイル形式や読むための機器は多くの実証により大まかには分かった事が大きな収穫である。

また、紙の書籍では理解しにくい、物理的に読

めない等の問題に関して、電子書籍の場合には、視線でページをめくったり、音声読上やフォントサイトの変更、コントラスト、ルビなど子ども達の個々の困り事に対応することが可能である。

一方、昨年の iPad mini、Google Nexu7、Amazon Kindle Fire HD、Microsoft Surface RT などのタブレット端末や、iPhone、Galaxy などのスマートフォンの相次ぐ発売により、電子書籍も注目を浴びており、その作成方法は別紙使用にもあるように、非常に多岐にわたって全てを検証するところまでには至らなかった。（ほとんどイタチごっこのような状況となっている。）

この多岐にわたる検証作業に予想以上に時間をとられ、冊子として報告書をまとめるところまでには至っていない。合わせて事業成果を早急に整理して当法人のホームページに掲載する予定です。

テストで参加してもらった、障害児は肢体不自由児・発達障害児・知的障害児など多くの障害を対象とし、対象児童によって困り事が違うために支援者（教員、保護者、施設職員など）の作成方法は本当に多岐にわたる。

最後に、大きな問題点として著作権の問題がある。市販されている本から手間を掛けて作成した電子書籍は著作権法上、再配布できないためにそれぞれが多くの手間を掛ける必要がある。

成果の広報、公表

研究期間中に、多くの特別支援学校にて実際に

電子書籍の作成研修を開催してきており、その資料は当法人サイトにすべてアップロードされています。

<http://npo-atds.org/datafile>

しかし、最終報告書としては期間内には、まだ完全に整理してきておらず出来次第、当法人のサイトで提示いたします。

■ 今後の展開

過去数回にわたり、電子書籍元年と言われて来ましたが本格的に電子書籍が普及するまでには至っておりません。電子書籍化されている書籍も発売数の見込めるものが大半で、障害児の読みたいものはまだまだありません。

各自が簡単に紙の書籍をデジタル化する方法を広く普及することで、障害児が少しでも学習に取り組める環境を整備する必要があります。

今回の研究の書籍化も検討中です。